

科目名	マス・コミュニケーション論						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	鍵本 優						

授業概要／Course outline

この授業では、マス・コミュニケーションおよびマス・メディアについての基礎を学ぶほか、メディアとコミュニケーションをめぐる歴史、身体や映像をめぐるメディア文化といった具体的な社会現象も学んでいきます。そうしたマス・コミュニケーションとそのメディア経験を考察することで、受講生に自身ならではの興味・関心・発見を具体的に探ってもらいます。また、文章作成・取材・写真撮影などについての具体的手法を学びつつ、実践します。

したがって本科目は、講義での学びと自身の実践による学びを組み合わせた授業内容となっています。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- 90分相当のビデオ・オン・デマンド授業。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回： 授業の概要とスケジュール、およびイントロダクション

授業の概要・ねらい・注意事項を説明したうえで、スケジュールについて説明する。

第2回： ローカルなもの取材してみる ——誰かではなく「私」が書く

自分のまわりのローカルなものから何か材を取って（＝取材）、自分なりに文章を実践的に書いてみる。

第3回： ニュースとジャーナリズム

ニュースやジャーナリズムについて、具体的な諸事例を参照しつつ、その社会的・歴史的な意義を学ぶ。

第4回： メディア・ワーク① ——プロの新聞記者がみる、具体例の大切さ

新聞づくりという、ジャーナリストの現場を学ぶ。そのうえで、自身の文章を批判的にチェックしてみる。

第5回： マス・コミュニケーションとしてのメディア文化 ——写真、映画、テレビ、音楽

さまざまな具体的事例を通じて、マス・コミュニケーションとして捉えられるメディア文化を考察する。

第6回： 大量のコミュニケーション ——「集める／集まる」ことがもたらすもの

人びとやシステムは「モノ」「情報」「ことば」「人」などを数多く「集めて」きた。それらが「集まること」（＝マスになること）でどういった社会現象が生じるのかを、コミュニケーションの面から歴史的に考察する。

第7回： メディアとコミュニケーション① ——「自分」をめぐるメディア

まずは「いまの自分」との関わりから、〈メディア〉とはどういうものかを捉えなおしてみる。そして、どのように「いまの自分」ができているのかを、身近なメディアとの関わりから考える。

第8回： メディアとコミュニケーション② ——私たちの知覚

前回に引き続き、「いまの自分」との関わりから〈メディア〉を捉えなおしてみる。そして、どのように自身の「知覚」ができているのか／作り直されてきたのかを、メディア行為との関わりから考える。

第9回： メディアとコミュニケーション③ ——技術とジェンダー

コミュニケーション技術の生成・発展において、ジェンダーなどの社会的役割（＝「らしさ」）がいかに絡みついていったかを、電話・ラジオ・テレビなどの歴史的事例にそくして学ぶ。

第10回： 〈実感／実践〉としてのメディア・リテラシー

自分自身の思考を自覚的に捉え返す重要性を実践的に学ぶ。また、「中間課題」の説明をする。

第11回： メディア・ワーク② ——自分で取材をして、ミニ記事を作成する

何らかの具体的な対象を自分なりに取材・撮影・メモ作成をし、本格的な記事の作成を実践してみる。

★オン・デマンド： 授業で学んだ取材と記事作成を復習する。また事件を追う新聞記者と警察の社会的関連について学ぶ。このオン・デマンド授業は、合計90分相当の内容を12月18日までにmoodleで配信する。

第12回： メディア経験を再考する① ——参加する身体

パブリック・ビューイングやフェスといった参加型イベントをとりあげ、そこでのさまざまな身体的コミュニケーションを現代社会の文化現象として考察する。

第13回： メディア経験を再考する② ——かわいい／カワイイ／kawaii

現代のモノ文化を具体的にとりあげ、それをめぐるコミュニケーションや意味を社会学的に考察する。

第14回： メディア経験を再考する③ ——映像の経験から

近現代の代表的メディアである「映像」の経験において、人びとに生じた知覚がどのような社会現象だったのかを、アニメーション作品や映画作品などや歴史的事例にそくして考察する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※ 事前・事後学修は各授業180分必要である。下記および授業内容を確認し、とくにしっかりと事後学修を行なうこと。

第1回、第3回、第5回～第9回、第12回～第14回：

〔事前学修〕moodleにアクセスし、授業テーマを理解しておくこと。

〔事後学修〕レジュメや授業資料や参考文献を確認しつつ、授業内容を復習すること。また、ワーク課題に取り組みつつ、授業内容を自分のことばで文章としてまとめ直しておくこと。

第2回、第4回、第10回～第11回：

〔事前学修〕moodleにアクセスし、授業テーマを理解しておくこと。

〔事後学修〕レジュメや授業資料や参考文献を確認しつつ、授業内容を復習すること。そのうえで、取材などをおこない、数百字の文章で自身の考察・見解をまとめること。

★オン・デマンド：

〔事前学修〕moodleにアクセスし、授業テーマを理解しておくこと。

〔事後学修〕第11回の授業内容とともに、学んだ内容を復習すること。

授業の到達目標／Expected outcome

・「身近なのに、じつは深い謎をもつものごとがある」ことに驚ける力、および歴史的・社会的な背景にも着眼した考察力を養うこと。

・具体的な事例や経験を対象とした標準的な文章表現ができるようになること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・思考力
- ・主体性
- ・発信力

履修上の注意／Special notes, cautions

・配布レジュメに書き込むための筆記用具を持参すること。

・本科目は「自分で文章を書く」という実践力を身につけてもらうことを主眼の1つとしていますので、安易なコピー回答の課題提出をされるくらいなら、最初から受講されないでください。厳しく対処します。

評価方法／Evaluation

平常点（授業内で課す提出物）100%

教材／Text and materials

1) 教材： 配布レジュメは授業で配布します。授業資料は moodle (URL : <http://www.kyoto-su.ac.jp>) 。

2) 教科書・参考図書： なし

※ 学びの参考となる文献は、授業ごとに提示します。

質問や相談の方法／Instructor contact

授業に関する質問や相談は、授業時間の前後で対応します。